

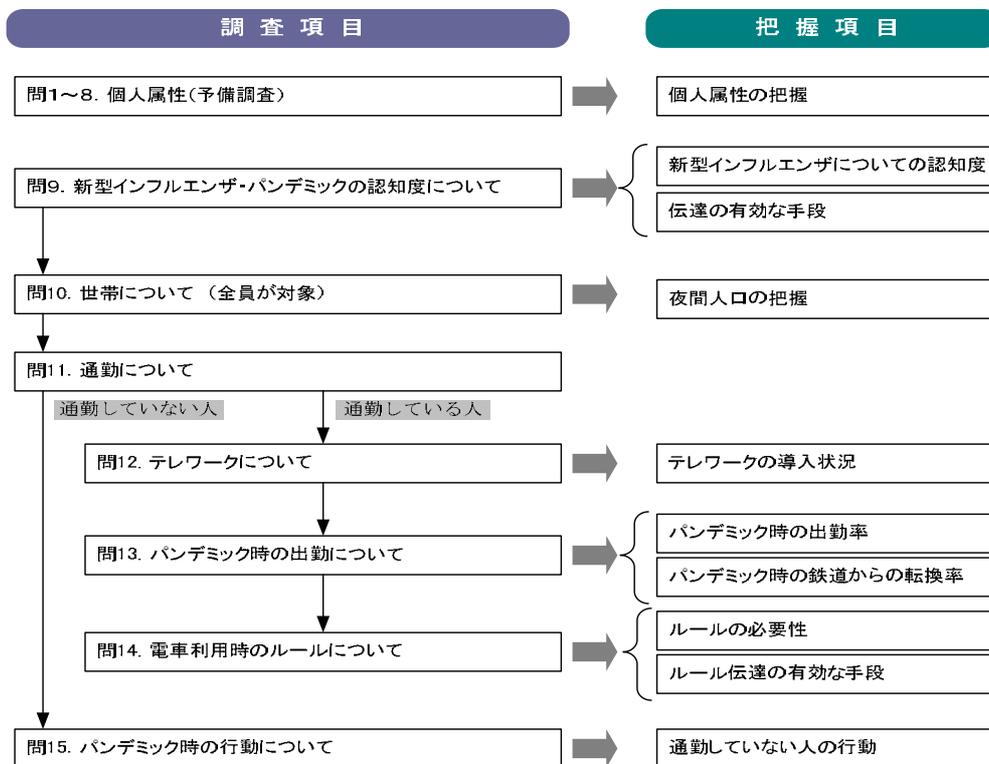
## インターネットアンケート調査結果

### インターネットアンケート調査の概要

#### (1) 趣旨

インターネットアンケート調査により、パンデミックに対する住民の意識・認識を把握し、対策・効果検証シミュレーションの前提となるパンデミック時の昼間人口、夜間人口及び流動状況を推計する。

図表 1 インターネットアンケート調査による把握内容



#### (2) 結果

- ・ 「新型インフルエンザ」及び「新型インフルエンザ・パンデミック時の状況」について、それぞれ 67%、59%の人が認知しており、多くが「テレビの報道」から認知したと回答した。
- ・ 首都圏で、新型インフルエンザ・パンデミック時に「移動・転居する」人の割合は 13%であった。
- ・ 新型インフルエンザ・パンデミック時に「出勤しない」と回答した人は 25%であった。
- ・ 現在通勤している人のうち、主要な通勤手段を「鉄道」と回答した人が 90%であり、そのうちの 6%が新型インフルエンザ・パンデミック時に鉄道以外の交通機関に交通手段を変えると回答した。
- ・ 鉄道利用時の行動ルールが必要と回答した人は 88%であった。

## 1. インターネットアンケート調査の設計

調査対象者	首都圏居住者の就業者で勤務先が山手線内にある人 (首都圏：PT 調査の対象範囲)
抽出の考え方	居住地別に H12 の国勢調査結果の人口分布に応じて抽出する。 居住地域区分は市区町村区分。
調査項目	・ 個人属性 ・ パンデミック認知の有無 ・ パンデミック時の行動 (疎開、外出の有無、交通機関の変化など)
調査規模	目標 2000 サンプル (2,651 サンプル収集) 回答者のサンプリングは都道府県別従業者数の分布に合わせる
調査期間	平成 21 年 1 月 30 日～2 月 10 日

### ※ PT 調査の対象範囲

東京都市圏 (東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県南部) を対象。H17 年国勢調査によると約 3,600 万人の人々が在住。

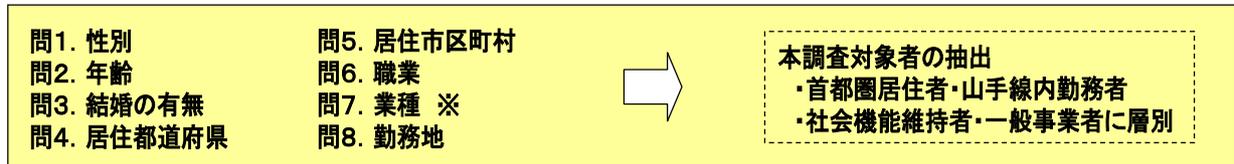


※ サンプル数は、首都圏の人口、回答結果の信頼性などを考慮し、2,000 サンプルとした。回収された結果の個人属性について既存統計データと比較したところ、概ね同様の結果となっており、回収されたサンプルに大きな偏りはない。

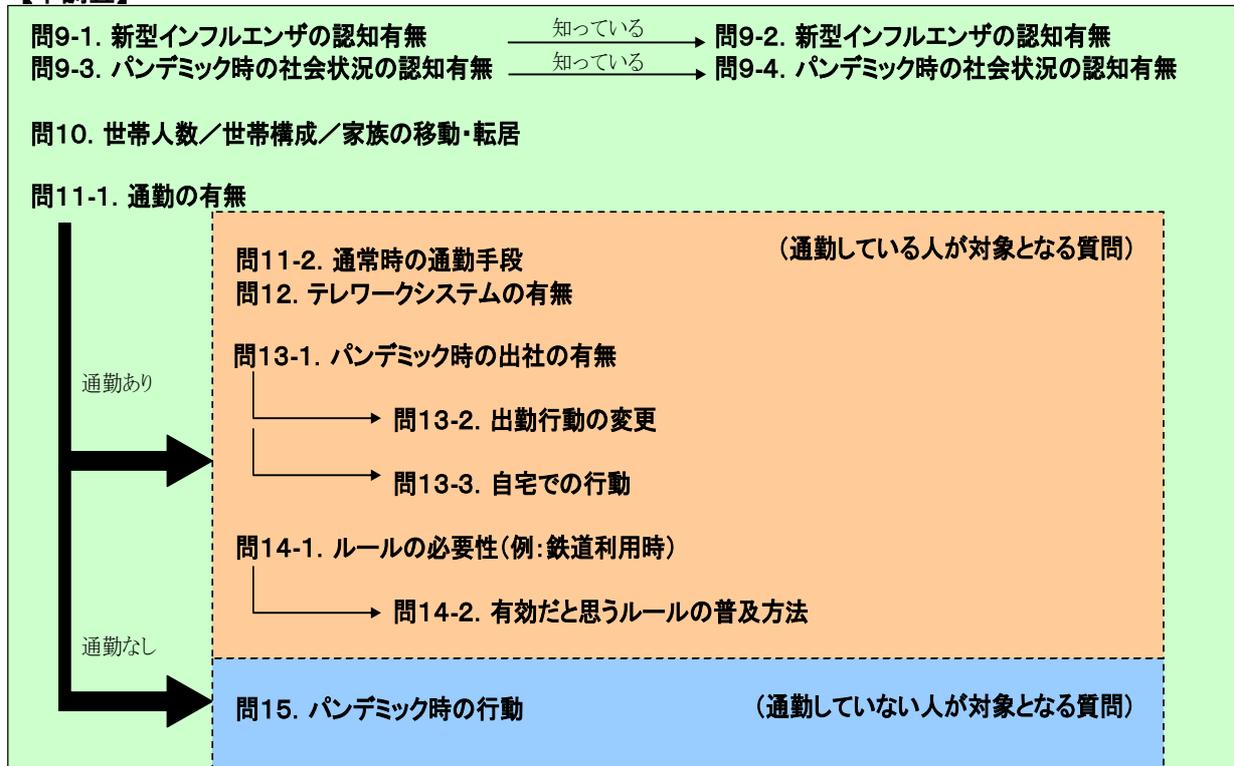
## 2. インターネットアンケート調査の結果・分析

### (1) 調査項目

#### 【予備調査】



#### 【本調査】



※問7の業種分類は、事業所企業統計の業種分類を基に設定した。

また、事業者・職場における新型インフルエンザ対策 ガイドライン（改定案）（平成20年7月30日第8回新型インフルエンザ専門家会議資料）を踏まえ、本調査で独自に社会機能維持に関わる業種を設定し、社会機能維持に関わる者を「社会機能維持事業者」と、その他の事業者を「一般事業者」とした。

<参考：社会機能維持に関わる業種>

【社会機能維持に関わる者として事業継続を要請される事業者】

- ・ 国民の生命・健康や最低限の国民生活を維持するために必要な医療従事者や社会機能の維持に関わる事業者としては、以下のような業種・職種が想定される。新型インフルエンザの流行時においても事業を継続するため、代替・補助要員の確保など人員体制について検討を行うことが必要である。

ア. 医療従事者：機能低下を来した場合、国民の生命の維持に支障を来すもの（医療従事者、救急隊員、医薬品製造販売業者等）

イ. 社会機能の維持に関わる事業者

- \* 治安維持：機能低下を来した場合、治安の悪化のため社会秩序が維持できないもの（消防士、警察職員、自衛隊員、海上保安庁職員、矯正職員、法曹関係者等）
- \* ライフライン関係：機能低下を来した場合、最低限の国民生活が維持できないもの（電気事業者、上下水道関連事業者、ガス事業者、石油事業者、熱供給事業者、金融事業者、情報処理事業者、食料品・生活必需品製造販売事業者、鉄道業者、道路旅客・貨物運送業者、航空運送事業者（国内線関係）、水運業者（国内線関係）等）
- \* 国又は地方公共団体の危機管理に携わる者：機能低下を来した場合、最低限の国民生活や社会秩序が維持できないもの（国会議員、地方議会議員、都道府県知事、市町村長、国家公務員・地方公務員のうち危機管理に携わる者、在外公館職員、航空運送事業者（国際線関係）、水運業者（国際線）等）
- \* 国民の最低限の生活維持のための情報提供に携わる者：機能低下を来した場合、情報不足により社会秩序が維持できないもの（報道機関、重要なネットワーク事業・管理を行う通信事業者等）

出典）事業者・職場における新型インフルエンザ対策 ガイドライン（改定案）（平成 20 年 7 月 30 日 第 8 回新型インフルエンザ専門家会議資料）

業 種			
1	農林漁業	15	通信業*
2	鉱業	16	飲食料品卸売業*
3	建設業	17	繊維・衣服等卸売業
4	食料品・飲料品製造業*	18	その他商品卸売業
5	繊維工業・製品製造業	19	飲食料品小売業*
6	木材・家具・パルプ印刷関連製造業	20	繊維・衣服等小売業
7	化学工業・石油製品・プラスチック製品製造業	21	その他商品小売業
8	鉄鋼・金属製造業	22	金融業
9	一般機械器具・電機機械器具製造業	23	保険・不動産業
10	精密機械器具・電子部品製造業	24	飲食店、宿泊業
11	輸送用機械器具製造業	25	医療、福祉*
12	その他の製造業	26	その他のサービス業
13	電気・ガス・水道業*	27	公務*
14	運輸業*	28	その他

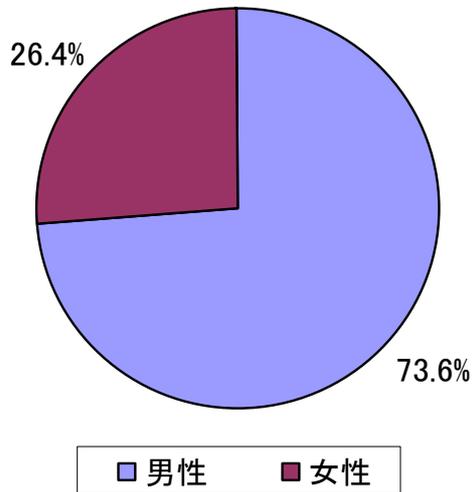
注）\*：本調査で独自に設定した社会機能維持事業者

(2) インターネットアンケート調査結果

1) 回答者の個人属性 (問1~8、問10)

① 性別

図表 2 性別

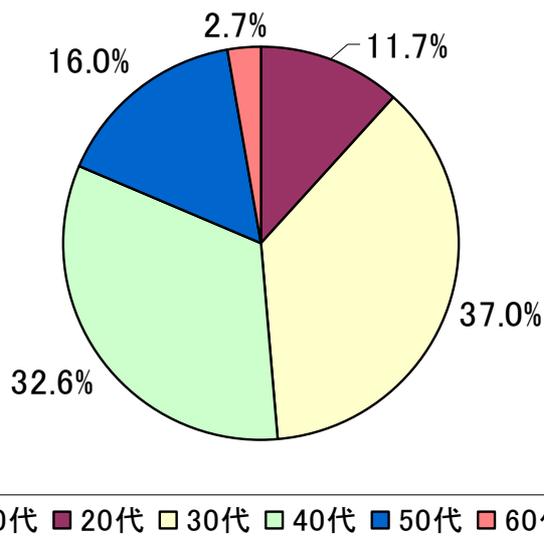


上段:回答数、下段:構成率

合計	男性	女性
2,651	1,952	699
100.0	73.6	26.4

② 年齢

図表 3 年齢

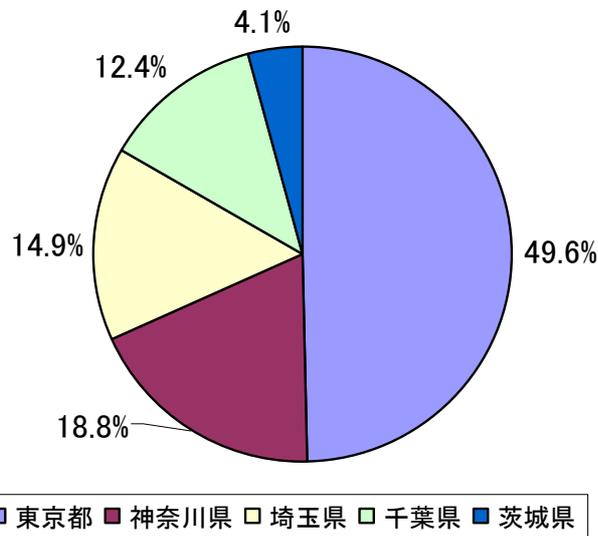


上段:回答数、下段:構成率

合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代
2,651	0	309	982	863	425	72
100.0	0.0	11.7	37.0	32.6	16.0	2.7

③ 居住地

図表 4 居住地

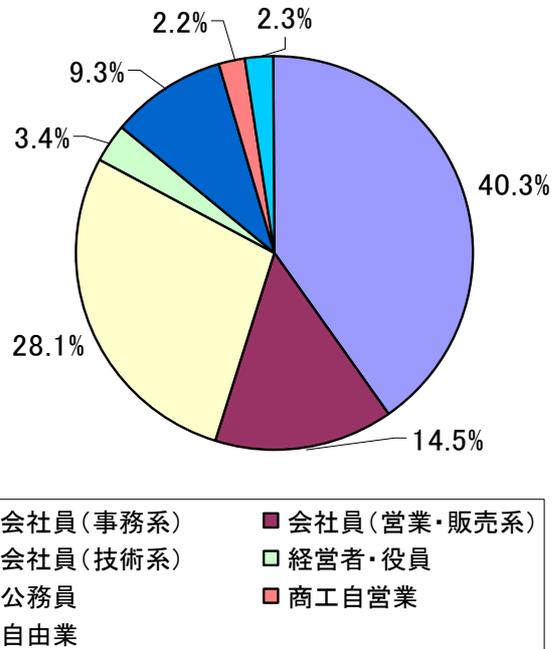


上段:回答数、下段:構成率

合計	東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県	茨城県
2,651	1,316	499	396	330	110
100.0	49.6	18.8	14.9	12.4	4.1

④ 職業

図表 5 職業

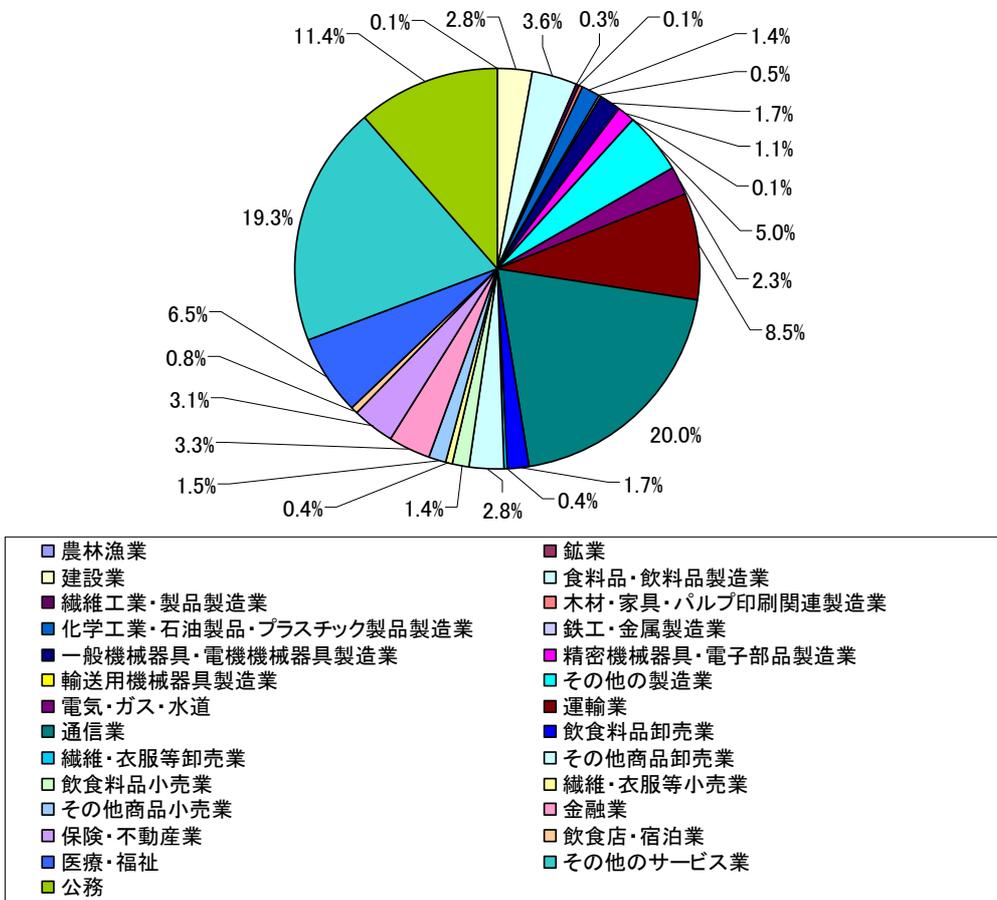


上段:回答数、下段:構成率

合計	会社員 (事務系)	会社員 (営業・販 売系)	会社員 (技術系)	経営者 ・役員	公務員	商工 自営業	自由業
2,651	1,068	384	745	89	247	58	60
100.0	40.3	14.5	28.1	3.4	9.3	2.2	2.3

⑤ 業種

図表 6 業種



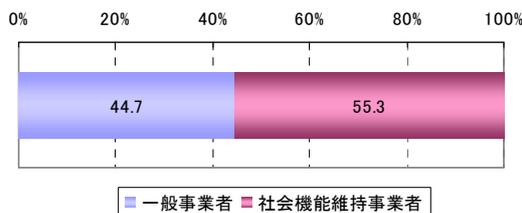
上段：回答数、下段：構成率

	農林漁業	鉱業	建設業	※	食料品・飲料品製造業	繊維工業・製品製造業	木材・家具・パルプ印刷関連製造業	化学工業・石油製品・プラスチック製品製造業	鉄工・金属製造業	一般機械器具・電機機械器具製造業
合計	2,651	2	1	74	95	8	2	36	13	45
	100.0	0.1	0.0	2.8	3.6	0.3	0.1	1.4	0.5	1.7

	※	※	※	※	※	※	※	※	※
精密機械器具・電子部品製造業	30	3	132	62	225	531	44	11	73
輸送用機械器具製造業	1.1	0.1	5.0	2.3	8.5	20.0	1.7	0.4	2.8

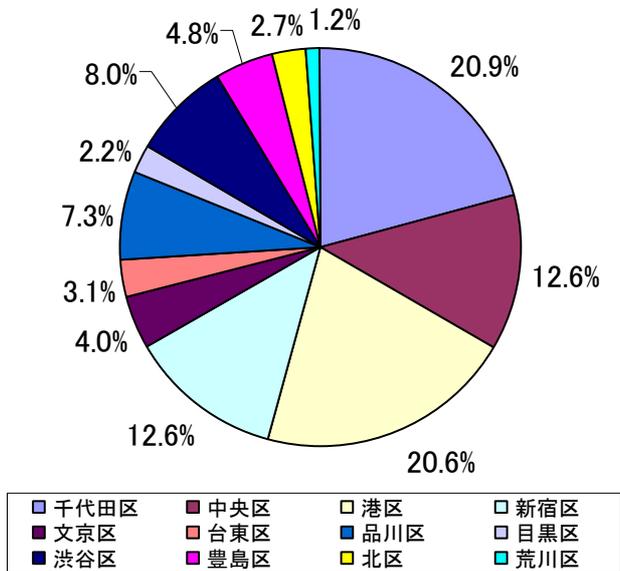
※	※	※	※	※	※	※	※	※
飲食料品小売業	37	11	41	88	82	20	171	512
繊維・衣服等小売業	1.4	0.4	1.5	3.3	3.1	0.8	6.5	19.3
その他商品小売業								302
金融業								11.4
保険・不動産業								
飲食店・宿泊業								
医療・福祉								
その他のサービス業								
公務								

※本調査で独自に設定した社会機能維持事業者



⑥ 勤務地

図表 7 勤務地



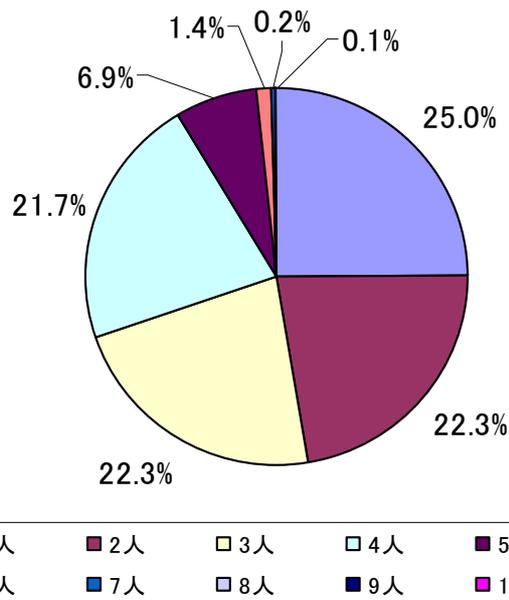
上段: 回答数、下段: 構成率

合計	千代田区	中央区	港区	新宿区	文京区	台東区
2,651	553	334	547	334	107	81
100.0	20.9	12.6	20.6	12.6	4.0	3.1

品川区	目黒区	渋谷区	豊島区	北区	荒川区
193	59	212	128	71	32
7.3	2.2	8.0	4.8	2.7	1.2

⑦ 世帯構成

図表 8 世帯構成



上段: 回答数、下段: 構成率

合計	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上
2,651	664	591	590	576	183	38	6	3	0	0
100.0	25.0	22.3	22.3	21.7	6.9	1.4	0.2	0.1	0.0	0.0

2) パンデミックに対する意識・認識に関する分析（問9、問1～15）

① 新型インフルエンザ、パンデミックの認知度と認知手段（問9～1,2）

【設問】

問9

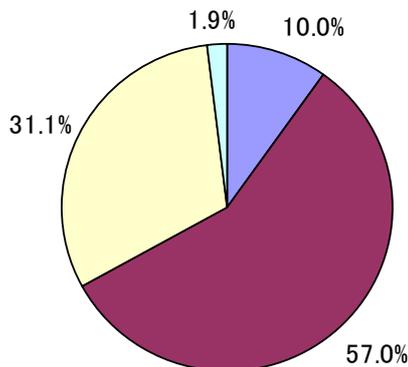
9-1) 新型インフルエンザの説明内容について知っていますか。

9-2) 新型インフルエンザについて、どのように知りましたか。

【結果】

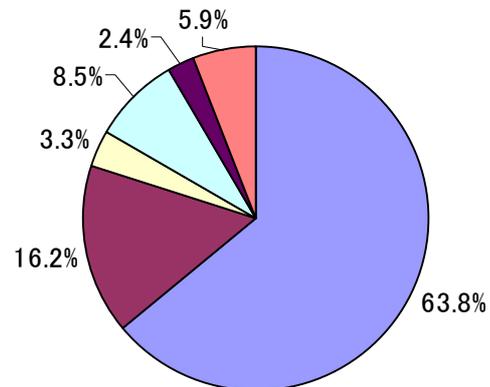
- ・ 新型インフルエンザの内容を「よく知っている」と回答した人は10%、「だいたい知っている」と回答した人は57%である。
- ・ 認知手段として、「テレビの報道」と回答した人は64%、「新聞の記事」と回答した人は16%である。

図表 9 新型インフルエンザの認知度



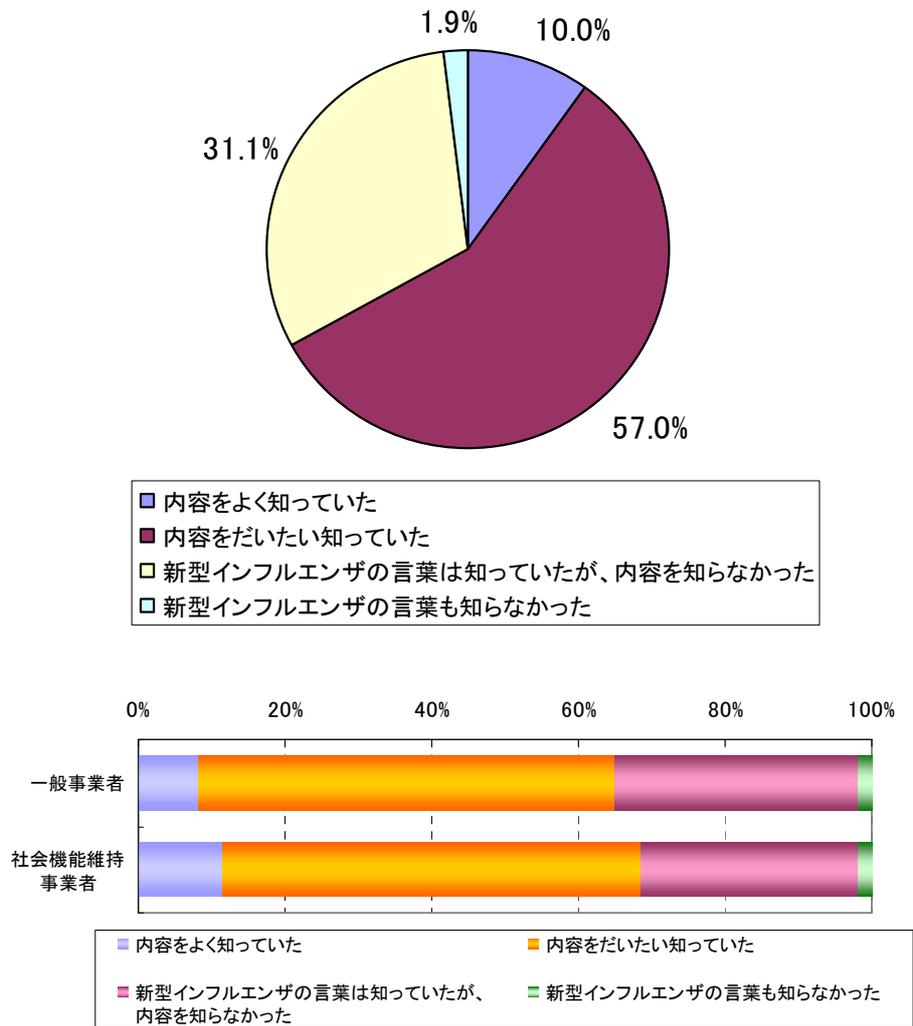
- 内容をよく知っていた
- 内容をだいたい知っていた
- 新型インフルエンザの言葉は知っていたが、内容を知らなかった
- 新型インフルエンザの言葉も知らなかった

図表 10 新型インフルエンザの認知手段



- テレビの報道から知った
- 新聞の記事から知った
- 雑誌の記事から知った
- ウェブサイトの記事から知った
- 本を読んで知った
- その他

図表 11 新型インフルエンザの認知度

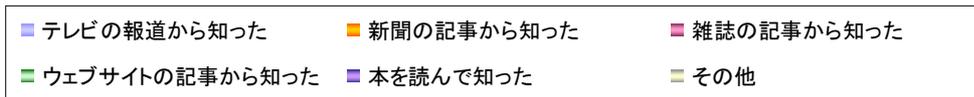
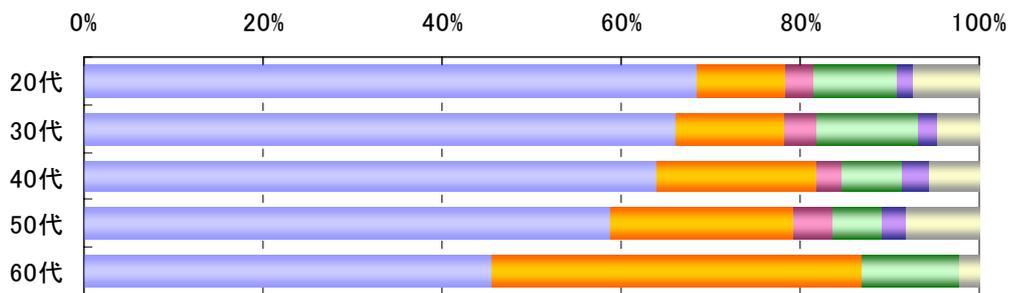
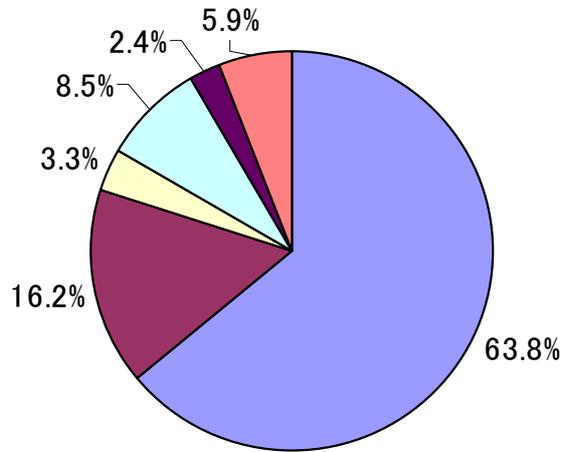


上段:回答数、下段:構成率

		新型インフルエンザの認知				
		合計	内容をよく知っていた	内容をだいたい知っていた	新型インフルエンザの言葉は知っていたが、内容を知らなかった	新型インフルエンザの言葉も知らなかった
業種	一般事業者	1,184 100.0	97 8.2	673 56.8	392 33.1	22 1.9
	社会機能維持事業者 <sup>※</sup>	1,467 100.0	168 11.5	838 57.1	433 29.5	28 1.9
	合計	2,651 100.0	265 10.0	1,511 57.0	825 31.1	50 1.9

※社会機能維持事業者は本調査で独自に設定

図表 12 新型インフルエンザの認知手段



上段:回答数、下段:構成率

		新型インフルエンザの認知情報源						
		合計	テレビの報道から知った	新聞の記事から知った	雑誌の記事から知った	ウェブサイトの記事から知った	本を読んで知った	その他
年代	20代	162	111	16	5	15	3	12
		100.0	68.5	9.9	3.1	9.3	1.9	7.4
	30代	625	413	76	22	72	12	30
		100.0	66.1	12.2	3.5	11.5	1.9	4.8
	40代	619	397	110	18	41	18	35
		100.0	64.1	17.8	2.9	6.6	2.9	5.7
	50代	324	191	66	14	18	9	26
	100.0	59.0	20.4	4.3	5.6	2.8	8.0	
	60代	46	21	19	0	5	0	1
	100.0	45.7	41.3	0.0	10.9	0.0	2.2	
	合計	1,776	1,133	287	59	151	42	104
		100.0	63.8	16.2	3.3	8.5	2.4	5.9

<新型インフルエンザの情報源：「その他」の内容>

新型インフルエンザの情報源として「その他」を回答した人（104人）の自由記述の内容から、多くあげられているキーワードを探索すると、「会社」（32人）、「職場」（11人）である。

その他、「仕事」、「業務」、「社内」などの同義語を合わせると、勤務先で新型インフルエンザについての知識を得た人は104人中62人（60%）である。

回答例

- ・ 会社での通知
- ・ 会社の e-learning
- ・ 会社で配られたパンフレット
- ・ 会社の説明会
- ・ 職場の Web ラーニング
- ・ 職場で予防パンフレットを読んだ
- ・ 会社で説明があつて危機管理を検討した
- ・ 職場の健康管理の資料から知った
- ・ 会社の産業医から説明を聞いた
- ・ 仕事上知っていた
- など

② パンデミック時の社会の状況の認知度と認知手段（問9-3, 4）

【設問】

問9

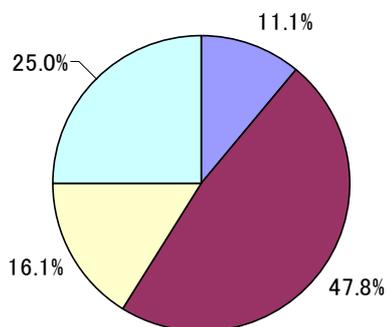
9-3) 新型インフルエンザが大流行した時の社会の状況の説明内容について知っていますか。

9-4) 新型インフルエンザが大流行した時の社会の状況について、どのように知りましたか。

【結果】

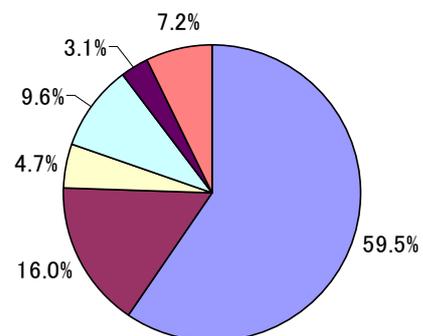
- ・ パンデミック時の社会状況の内容を「よく知っている」と回答した人は11%、「だいたい知っている」と回答した人は48%である。
- ・ 認知手段として、「テレビの報道」と回答した人は60%、「新聞の記事」と回答した人は16%である。

図表 13 パンデミック時の社会の状況の認知度



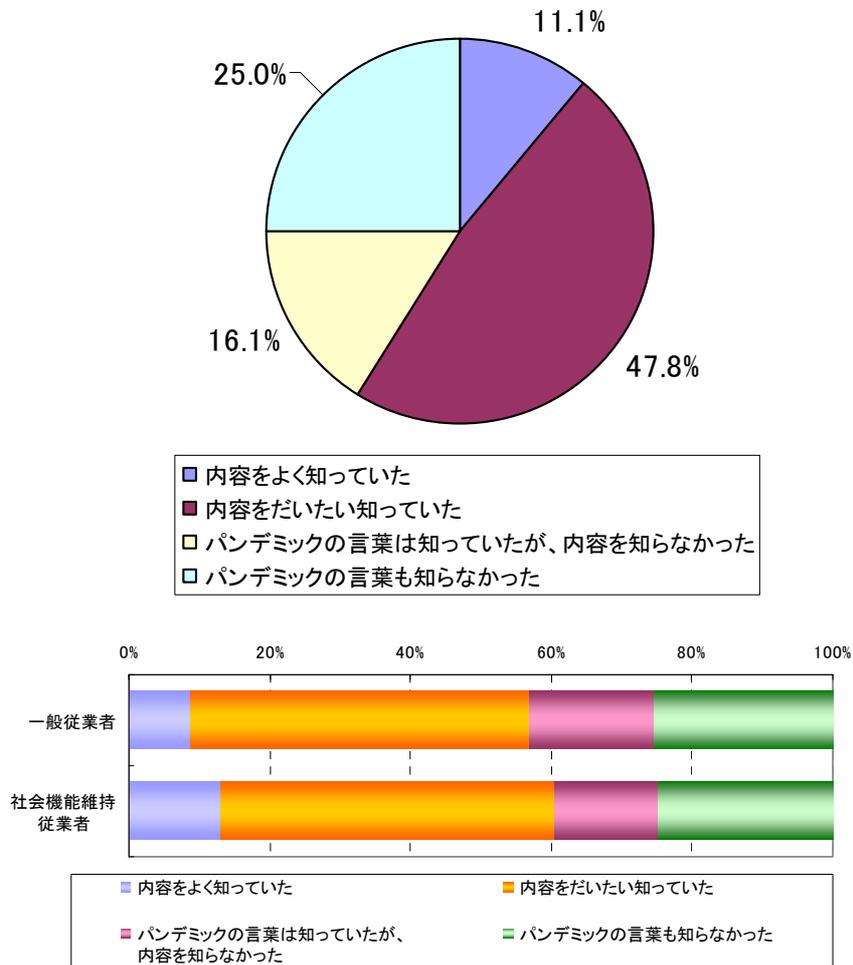
■ 内容をよく知っていた  
 ■ 内容をだいたい知っていた  
 □ パンデミックの言葉は知っていたが、内容を知らなかった  
 □ パンデミックの言葉も知らなかった

図表 14 パンデミック時の社会の状況の認知手段



■ テレビの報道から知った  
 ■ 新聞の記事から知った  
 □ 雑誌の記事から知った  
 □ ウェブサイトの記事から知った  
 ■ 本を読んで知った  
 ■ その他

図表 15 パンデミック時の社会の状況の認知度

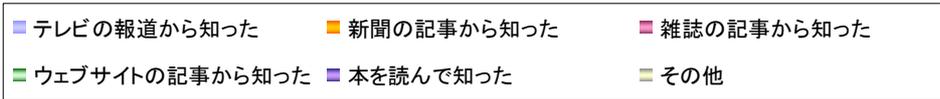
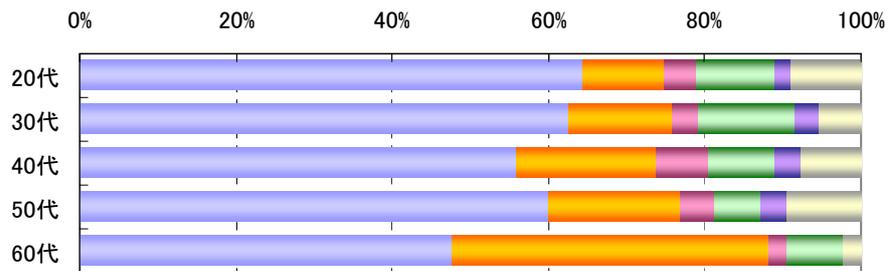
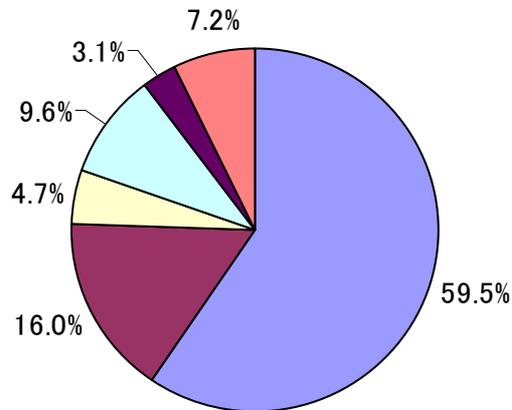


上段:回答数、下段:構成率

		パンデミック時の社会状況の認知				
		合計	内容をよく知っていた	内容をだいたい知っていた	内容を知らなかった	パンデミックの言葉も知らなかった
業種	一般事業者	1,184	103	570	211	300
		100.0	8.7	48.1	17.8	25.3
	社会機能維持事業者※	1,467	190	696	217	364
		100.0	13.0	47.4	14.8	24.8
	合計	2,651	293	1,266	428	664
		100.0	11.1	47.8	16.1	25.0

※社会機能維持事業者は本調査で独自に設定

図表 16 パンデミック時の社会の状況の認知手段



上段: 回答数、下段: 構成率

		パンデミック時の社会状況の認知情報源						
		合計	テレビの報道から知った	新聞の記事から知った	雑誌の記事から知った	ウェブサイトの記事から知った	本を読んで知った	その他
年代	20代	146	94	15	6	15	3	13
		100.0	64.4	10.3	4.1	10.3	2.1	8.9
	30代	545	341	72	18	68	17	29
		100.0	62.6	13.2	3.3	12.5	3.1	5.3
	40代	534	298	96	35	46	18	41
		100.0	55.8	18.0	6.6	8.6	3.4	7.7
	50代	292	175	49	13	17	10	28
	100.0	59.9	16.8	4.5	5.8	3.4	9.6	
	60代	42	20	17	1	3	0	1
	100.0	47.6	40.5	2.4	7.1	0.0	2.4	
	合計	1,559	928	249	73	149	48	112
		100.0	59.5	16.0	4.7	9.6	3.1	7.2

<パンデミック時の社会状況の認知情報源：「その他」の内容>

パンデミック時の社会状況の認知情報源として「その他」を回答した人（112人）の自由記述の内容から、多くあげられているキーワードを探索すると、「会社」（35人）、「職場」（10人）、「映画」（9人）である。

その他、「仕事」、「業務」、「勤務」などの同義語を合わせると、勤務先で新型インフルエンザについての知識を得た人は112人中64人（54%）である。

#### 回答例

- ・ 会社での通知
- ・ 会社のオンライン教育
- ・ 会社で小冊子を貰った
- ・ 会社の説明会
- ・ 職場の Web ラーニング
- ・ 職場の健康管理の資料
- ・ 映画：感染列島
- ・ 映画で観た
- ・ 業務上知りえた
- ・ 勤務先の対策計画で知った  
など

③ パンデミック時の夜間人口の変化（問 10）

【設問】

問 10

10-3) 新型インフルエンザが大流行した時には人口密度の高い首都圏は感染する可能性が高いため、家族を遠方の実家等へ一時的に移動・転居させることも考えられます。首都圏で新型インフルエンザが大流行する可能性が高いと報じられた時点（そのような場合には近日中に学校が休校になるものと考えられます）を前提に、家族を一時的に移動・転居させるかどうかお答えください。

【結果】

- ・ 首都圏で、パンデミック時に「移動・転居する」人の割合は 13%であった。
- ・ 「移動・転居率」の多い続柄を見ると、孫（60%）、子（20%）、配偶者(16%)である。

図表 17 パンデミック時の移動・転居率

居住地	移動・転居率	移動・転居する人数(人)	総数(人)
東京都	13.8%	444	3,225
神奈川県	13.4%	186	1,389
埼玉県	1.9%	144	1,208
千葉県	12.9%	18	917
茨城県	7.4%	29	390
首都圏	12.9%	921	7,129

※移動・転居率＝移動・転居する人数／回答者の家族数

続柄	移動・転居率	移動・転居する人数(人)	総数(人)
本人	8.0%	213	2,651
配偶者	15.7%	238	1,518
親	9.7%	81	835
子	19.8%	362	1,832
祖父母	0.0%	0	30
孫	60.0%	3	5
その他	9.3%	24	258
合計	12.9%	921	7,129

## 【結果】

- ・ 「移動・転居率」の多い年齢層を見ると、総数 100 人以上では、4 歳以下（30%）、5～9 歳（22%）、10～14 歳（19%）である。
- ・ 「移動・転居率」の多い職業を見ると、未就学数（29%）、小・中・高生（19%）、である。

年齢	移動・転居率	移動・転居する人数	総数（人）
4 歳以下	29.1%	118	405
5～9 歳	22.0%	62	282
10～14 歳	19.4%	72	372
15～19 歳	16.0%	65	407
20～24 歳	17.5%	62	354
25～29 歳	10.9%	57	523
30～34 歳	14.6%	117	801
35～39 歳	10.4%	88	844
40～44 歳	10.6%	81	762
45～49 歳	8.0%	59	739
50～54 歳	9.7%	47	484
55～59 歳	6.7%	27	406
60～64 歳	7.9%	24	302
65～69 歳	10.5%	18	172
70 代以上	8.7%	24	276
合計	12.9%	921	7,129

職業	移動・転居率	移動・転居する人数（人）	回答者の家族数（人）
会社員	8.9%	290	3,241
公務員	5.1%	16	315
自営業	10.1%	23	227
未就学	29.1%	18	405
小・中・高校生	18.6%	174	933
大学・大学院・ 専門学校生	16.5%	41	249
無職	16.5%	218	1,322
その他	9.4%	41	437
合計	12.9%	921	7,129

#### ④ パンデミック時の通勤（問 11、問 12、問 13）

##### 【設問】

問 13 首都圏で新型インフルエンザの大流行がほぼ確実に became と自分が受けとめた時の、出勤に関するあなたの行動をお答えください。

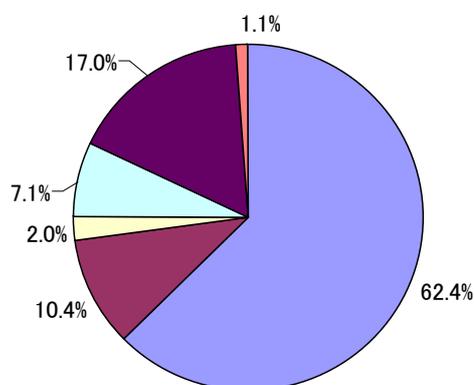
13-1) その時に出勤しますか。理由とともにお答え下さい。

13-2) 出勤する場合、あなたの行動をお答えください。

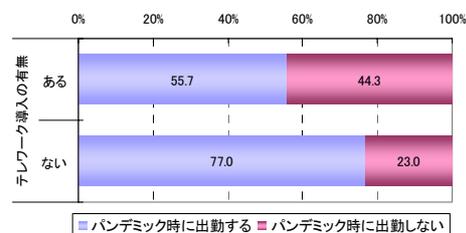
##### 【結果】

- ・ パンデミック時に、「出勤をしない」と回答した人は 25%である。
- ・ この内訳は、「勤務先の BCP 等で定められている」と回答した人が 7.1%、「勤務先の BCP 等はないが、自主的に出勤しない」と回答した人が 17.0%、「その他」と回答した人が 1.1%である。
- ・ パンデミック時に「移動・転居」と回答したサンプルを除くと、「出勤しない」と回答した人は 24%である。
- ・ テレワークが導入されている事業者への通勤者は、「出勤しない」と回答した人が 44%、テレワークが導入されていない事業者への通勤者は、「出勤しない」と回答した人が 23%である。

図表 18 パンデミック時の通勤状況



図表 19 テレワーク導入状況の出勤状況

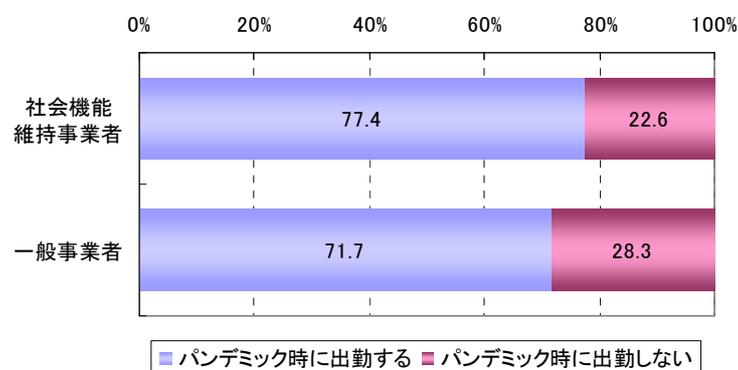


- 【出勤する】:理由 特別の指示がない限り、原則出勤するため
- 【出勤する】:理由 勤務先のBCP(事業継続計画)等に従い、出勤するため
- 【出勤する】:理由 その他
- 【出勤しない】:理由 勤務先のBCP(事業継続計画)等で定められているため
- 【出勤しない】:理由 勤務先のBCP(事業継続計画)等はないが、自主的に出勤しない
- 【出勤しない】:理由 その他

【結果】

- ・ 社会機能維持事業者への通勤者は、「出勤しない」と回答した人が 23%、一般事業者への通勤者は、「出勤しない」と回答した人が 28%である。
- ・ 鉄道で通勤している人で、パンデミック時に他交通機関へ交通手段を変えると回答した人が 6%である。その内訳は、バスが 0.1%、タクシーが 0.5%、タクシーを除く自動車を除く自動車が 2.3%、バイクが 0.6%、自転車が 2.0%、徒歩が 0.3%、その他が 0.2%である。

図表 20 社会機能維持事業者の出勤状況

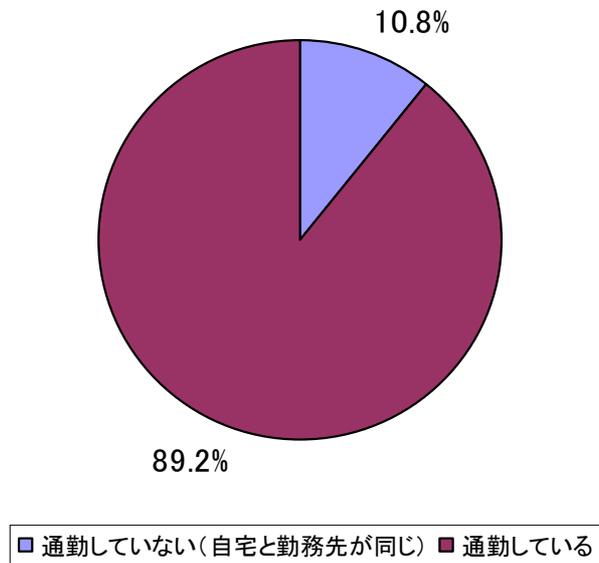


注) 社会機能維持事業者は本調査で独自に設定

図表 21 出勤する場合の行動（移動・転居者を除く）

Q11-2 通常時の通勤手段	Q13-1 パンデミック時の出社の有	Q13-1 パンデミック時の出社の無	Q13-1 パンデミック時の出社の有かつ通勤手段変更	変更する交通機関								
				鉄道	バス	タクシー	タクシーを除く自動車	バイク	自転車	徒歩	その他	
鉄道	1,954 100.0%	1,484 75.9%	470 24.1%	89 6.0%	0 0.0%	2 0.1%	8 0.5%	34 2.3%	9 0.6%	29 2.0%	4 0.3%	3 0.2%
バス	19 100.0%	15 78.9%	4 21.1%	2 13.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%
タクシー	2 100.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
タクシーを除く自動車	75 100.0%	55 73.3%	20 26.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
バイク	20 100.0%	16 80.0%	4 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
自転車	63 100.0%	54 85.7%	9 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
徒歩	39 100.0%	29 74.4%	10 25.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	10 100.0%	8 80.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	2,182 100.0%	1,663 76.2%	519 23.8%	91 5.5%	0 0.0%	2 0.1%	8 0.5%	34 2.0%	10 0.6%	29 1.7%	5 0.3%	3 0.2%

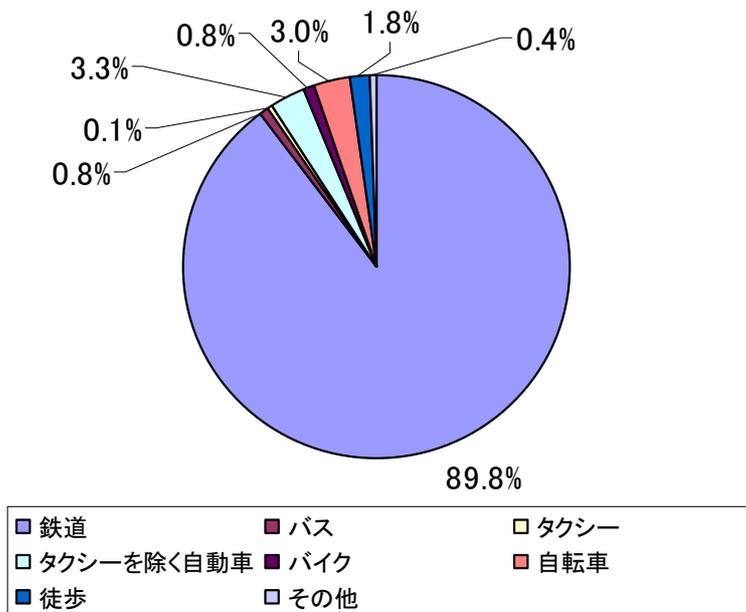
図表 2 2 現在の通勤状況



上段:回答数、下段:構成率

合計	通勤していない (自宅と勤務先が同じ)	通勤している
2,651	286	2,365
100.0	10.8	89.2

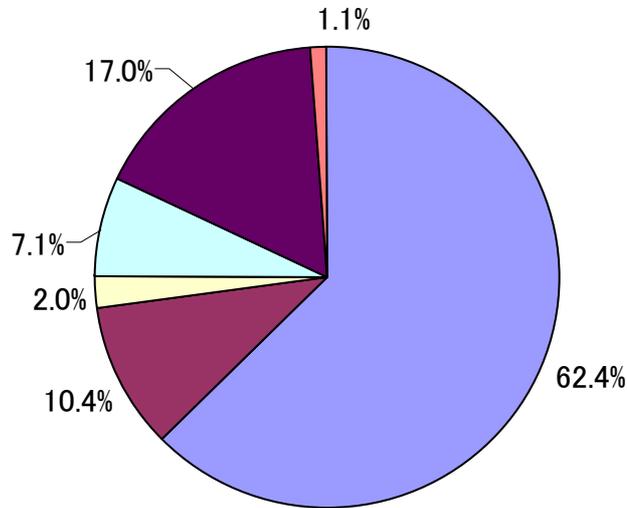
図表 2 3 現在の主要な通勤手段



上段:回答数、下段:構成率

合計	鉄道	バス	タクシー	タクシーを除く自動車	バイク	自転車	徒歩	その他
2,365	2,123	20	2	77	20	70	43	10
100.0	89.8	0.8	0.1	3.3	0.8	3.0	1.8	0.4

図表 24 パンデミック時の通勤状況



- 【出勤する】:理由 特別の指示がない限り、原則出勤するため
- 【出勤する】:理由 勤務先のBCP(事業継続計画)等に従い、出勤するため
- 【出勤する】:理由 その他
- 【出勤しない】:理由 勤務先のBCP(事業継続計画)等で定められているため
- 【出勤しない】:理由 勤務先のBCP(事業継続計画)等はないが、自主的に出勤しない
- 【出勤しない】:理由 その他

上段:回答数、下段:構成率

通勤手段	通常時	パンデミック時に 出勤する	パンデミック時に 出勤しない
鉄道	2,123 100.0	1,583 74.6	540 25.4
バス	20 100.0	16 80.0	4 20.0
タクシー	2 100.0	2 100.0	0 0.0
タクシーを除く自動車	77 100.0	57 74.0	20 26.0
バイク	20 100.0	16 80.0	4 20.0
自転車	70 100.0	59 84.3	11 15.7
徒歩	43 100.0	30 69.8	13 30.2
その他	10 100.0	8 80.0	2 20.0
合計	2,365 100.0	1,771 74.9	594 25.1

<パンデミック時の通勤状況：「その他」の内容>

パンデミック時の出勤する理由「その他」を回答した人（48人）の自由記述の回答としては、職務上、業種上の理由が多く上げられている。

回答例

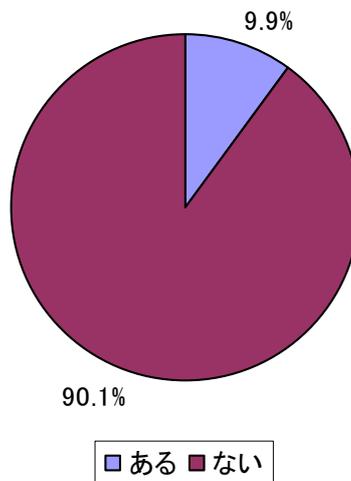
- ・ 医療関係のため
  - ・ 経営者だから
  - ・ 管理責任者として
  - ・ 勤務先が病院のため
  - ・ 医療機関で働いているので休めない
  - ・ 業務上防疫に携わる可能性がある
- など

パンデミック時の出勤しない理由「その他」を回答した人（27人）の自由記述の回答例を以下に示す。

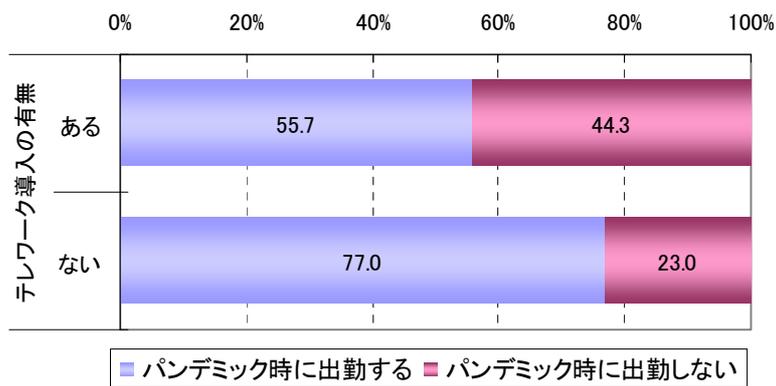
回答例

- ・ 命が大事
  - ・ 危険だから
  - ・ リスクが大きいため
  - ・ 仕事にならないと思うので
- など

図表 25 テレワーク導入状況



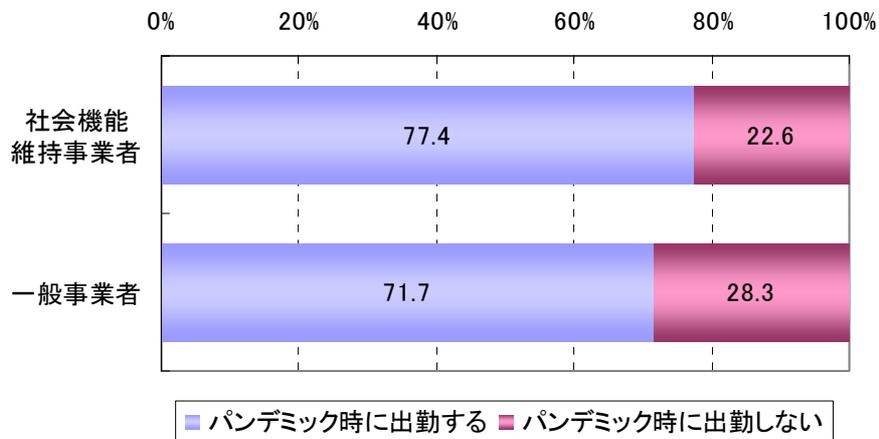
図表 26 テレワーク導入状況の出勤状況



上段:回答数、下段:構成率

出勤について	計	テレワーク導入の有無	
		ある	ない
パンデミック時に出勤する	1,771 74.9	131 55.7	1,640 77.0
パンデミック時に出勤しない	594 25.1	104 44.3	490 23.0
合計	2,365 100.0	235 100.0	2,130 100.0

図表 27 社会機能維持事業者の出勤状況

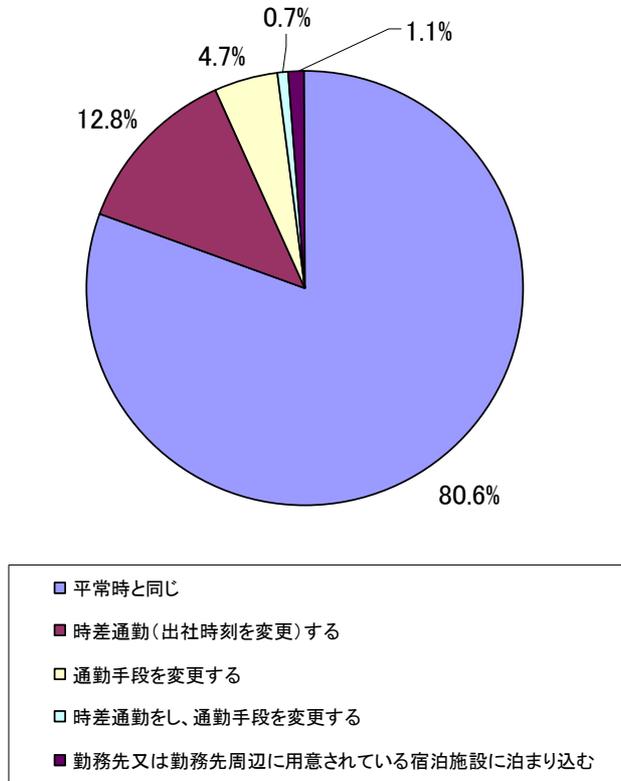


上段:回答数、下段:構成率

出勤について	計	社会機能維持事業者	
		社会機能維持事業者	一般事業者
パンデミック時に出勤する	1,771 74.9	1,029 77.4	742 71.7
パンデミック時に出勤しない	594 25.1	301 22.6	293 28.3
合計	2,365 100.0	1,330 100.0	1,035 100.0

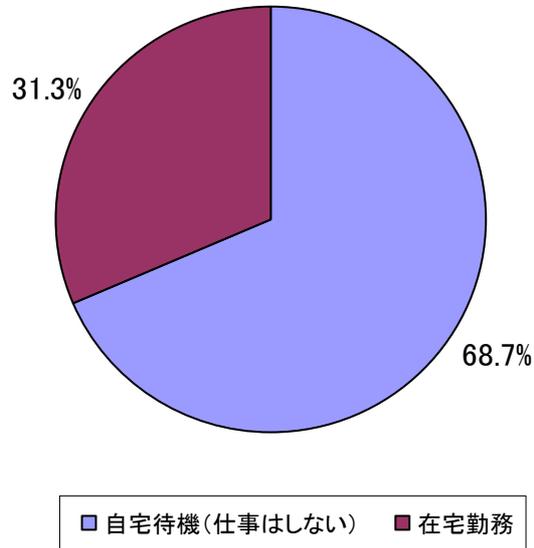
注) 社会機能維持事業者は本調査で独自に設定

図表 28 出勤する場合の行動（移動・転居者を除く）



Q11-2 通常時の通勤手段	Q13-1 パンデミック時の出社の有	Q13-1 パンデミック時の出社の無	Q13-1 パンデミック時の出社の有かつ通勤手段変更	変更する交通機関								
				鉄道	バス	タクシー	タクシーを除く自動車	バイク	自転車	徒歩	その他	
鉄道	1,954 100.0%	1,484 75.9%	470 24.1%	89 6.0%	0 0.0%	2 0.1%	8 0.5%	34 2.3%	9 0.6%	29 2.0%	4 0.3%	3 0.2%
バス	19 100.0%	15 78.9%	4 21.1%	2 13.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%
タクシー	2 100.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
タクシーを除く自動車	75 100.0%	55 73.3%	20 26.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
バイク	20 100.0%	16 80.0%	4 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
自転車	63 100.0%	54 85.7%	9 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
徒歩	39 100.0%	29 74.4%	10 25.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	10 100.0%	8 80.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	2,182 100.0%	1,663 76.2%	519 23.8%	91 5.5%	0 0.0%	2 0.1%	8 0.5%	34 2.0%	10 0.6%	29 1.7%	5 0.3%	3 0.2%

図表 29 出勤しない場合の行動



上段: 回答数、下段: 構成率

合計	自宅待機 (仕事はしない)	在宅勤務
594	408	186
100.0	68.7	31.3

⑤ 鉄道利用時のパンデミック時の行動ルールについて（問 14）

【設問】

問 14 新型インフルエンザは飛沫感染しますが、飛沫が到達するのは 1~2mとされています。そこで、鉄道利用には、マスク等を着用した上で周囲と一定の間隔※を空けることが感染を防止する上で有効とされています。

※一定の間隔の確保については、「事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン（案）」において、

「通常、飛沫はある程度の重さがあるため、発した人から 1~2メートル以内に落下する。つまり 2メートル以上離れている場合は感染するリスクは低下する。」とされている。

このため、鉄道利用には、ホームでの列車待ち、車内での乗車位置等について、旅客同士間隔をとる等の一定のルールが必要で、乗客はそのルールを守って行動することが重要になると考えられます。

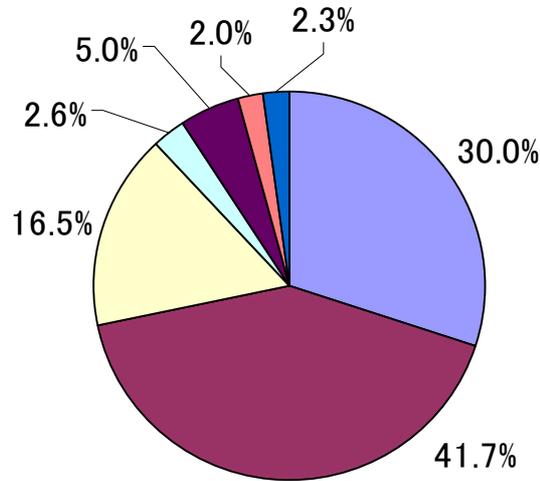
14-1) このような鉄道利用時のルールについて、あなたはどのように考え、どのように行動すると思いますか。

14-2) ルールは必要であると回答した方に伺います。このような鉄道利用時のルールを、利用者に広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。

【結果】

- ・ 鉄道利用時の行動ルールが必要と回答した人は 88%である。
- ・ 行動ルールの伝達手段としては、パンフレット配布、ポスターの掲示、マスコミによる情報伝達、インターネットによる情報伝達と回答した人が 17~29%である。

図表 30 行動ルールの必要性



- 感染拡大防止にはルールは必要であり、社会全体がルールに従って行動できると思う
- ルールは必要だと思うが、他人の行動につられるなどして実際にルールに従って行動できるかどうか不安を感じる
- ルールは必要だと思うが、ルールを理解できるかどうか不安を感じる
- 各自の判断で行動すればよいと思うので、ルールを設ける必要はないし、自分は適切に行動できる
- ルールを設けたとしても守られないと思うので、ルールを設ける必要はない
- 通勤に鉄道を利用しないので、わからない

上段: 回答数、下段: 構成率

合計	感染拡大防止にはルールは必要であり、社会全体がルールに従って行動できると思う	ルールは必要だと思うが、他人の行動につられるなどして実際にルールに従って行動できるかどうか不安を感じる	ルールは必要だと思うが、ルールを理解できるかどうか不安を感じる	各自の判断で行動すればよいと思うので、ルールを設ける必要はないし、自分は適切に行動できる
2,660	799	1,108	438	68
100.0	30.0	41.7	16.5	2.6

ルールを設けたとしても守られないと思うので、ルールを設ける必要はない	通勤に鉄道を利用しないので、わからない	その他
134	52	61
5.0	2.0	2.3

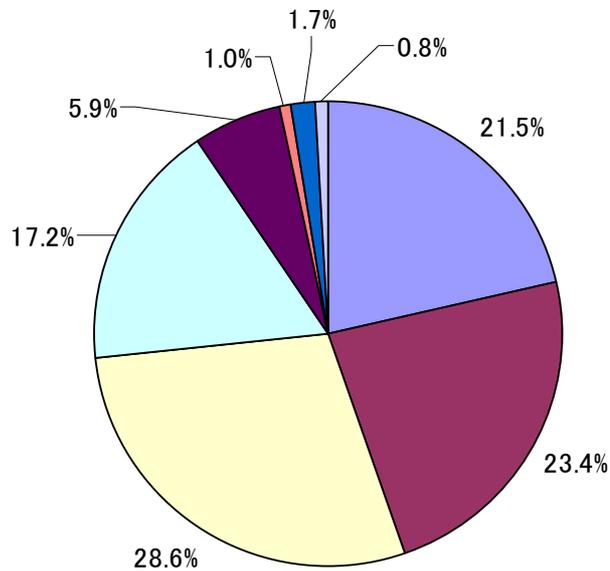
<行動ルールの必要性：「その他」の内容>

パンデミック時の行動ルールの必要性の「その他」を回答した人（61人）の自由記述の内容は、ルールの必要性は認めているが、「ルールが守れない」、「ルールが実現できない」など、実行性について否定的な意見が過半数を超えている。

回答例

- ・ ルールは必要だと思うが、ルールを設けたとしても守られないと思うので鉄道を利用しない
- ・ ルールを設けたとしても実現できない
- ・ ルールは必要だと思うが、こういったルールは「全員」が守らなければ意味がなく、それは事実上不可能だと考える。
- ・ 今でさえ、ルールが守ることのできない人が多いので、不安を感じる。  
など

図表 3 1 行動ルールへの伝達手段（複数回答）



- ルールを示したパンフレットの配布
- ルールを示したポスターの掲示
- テレビや新聞など、マスコミを通じた情報の伝達
- インターネットによる情報の伝達
- 説明会の実施
- 実際、利用する時に、ルールを知らなければ問題ない
- その他
- わからない

上段: 回答数、下段: 構成率

合計	ルールを示したパンフレットの配布	ルールを示したポスターの掲示	テレビや新聞など、マスコミを通じた情報の伝達	インターネットによる情報の伝達
5,815	1,248	1,359	1,663	999
100.0	21.5	23.4	28.6	17.2

説明会の実施	実際、利用する時に、ルールを知らなければ問題ない	その他	わからない
345	59	98	44
5.9	1.0	1.7	0.8

<行動ルールの伝達手段：「その他」の内容>

行動ルールの伝達手段「その他」を回答した人（98人）の自由記述の内容から、多くあげられているキーワードを探索すると、「駅」（12人）、「車内」（12人）、「駅員」（6人）である。

回答例

- ・ 駅での放送・駅員による説明
- ・ 電車内でのアナウンス
- ・ 駅員の呼びかけ
- ・ 事前に駅前などで体験キャンペーンを数日間に渡って実施する
- ・ 駅員が見張る  
など

⑥ 通勤していない人のパンデミック時の行動（問 15）

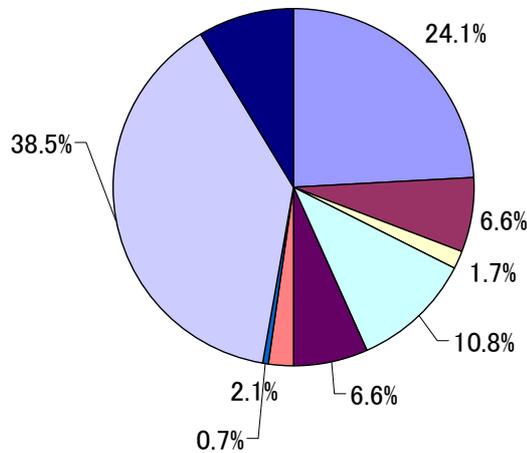
【設問】

問 15. 首都圏で新型インフルエンザの大流行がほぼ確実に became と自分が受けたとめた時に仕事をしますか。理由とともにお答えください。

【結果】

- ・ 自営業などの通勤していない人のパンデミックの行動は、通常通り仕事をする人と回答した人は 47%である。
- ・ その理由として、休業中の補償がないことを挙げた人は 39%である。

図表 3 2 通勤していない人のパンデミック時の行動



- 【仕事をしない】:理由 従業員が出社しないと思われるから
- 【仕事をしない】:理由 受注がなくなるとと思われるから
- 【仕事をしない】:理由 その他
- 【業務量を減らして仕事をする】:理由 従業員が減少すると思われるから
- 【業務量を減らして仕事をする】:理由 受注が減少すると思われるから
- 【業務量を減らして仕事をする】:理由 BCP(事業継続計画)等で定めているから
- 【業務量を減らして仕事をする】:理由 その他
- 【通常通り仕事をする】:理由 休業中の補償がないから
- 【通常通り仕事をする】:理由 その他

上段:回答数、下段:構成率

合計	仕事をしない		
	従業員が出社しないと思われるから	受注がなくなるとと思われるから	その他
286	69	19	5
100.0	24.1	6.6	1.7

	業務量を減らして仕事をする			
	従業員が減少すると思われるから	受注が減少すると思われるから	BCP(事業継続計画)等で定めているから	その他
	31	19	6	2
	10.8	6.6	2.1	0.7

通常通り仕事をする	
休業中の補償がないから	その他
110	25
38.5	8.7

<通勤していない人のパンデミック時の行動：「その他」の内容>

「仕事をしない：その他」を回答した人（5人）の自由記述の内容は次のとおり。

回答

- ・ 感染したくないし、媒介もしたくないから
- ・ 感染の危険が高まるから
- ・ お客様がこないと思われるから
- ・ 子どもの感染が心配だから
- ・ 子供が小さいので保育所に預けるのが不安なので休んでしまうと思います

「業務量を減らして仕事をする：その他」を回答した人（2人）の自由記述の内容は次のとおり。

回答

- ・ 会社の指針に従う
- ・ 取引先の破綻を回避するため

「通常どおり仕事をする：その他」を回答した人（25人）の自由記述の内容で、「自宅だから」、  
「在宅勤務だから」が多い。

回答

- ・ 自営だから
- ・ 自宅なので
- ・ 在宅勤務のため  
など

<参考：インターネットアンケート調査票>

【個人属性（調査対象を絞るためのスクリーニング調査）】

問 1. あなたの性別をお知らせください。（ひとつだけ）

選択肢

- ① 男性                      ② 女性

問 2. あなたの年齢をお知らせください。（数字で記入）

歳

※数字直接入力

問 3. あなたはご結婚されていますか。（ひとつだけ）

選択肢

- ① 未婚                      ② 既婚

問 4. あなたのお住まいの都道府県をお知らせください。（ひとつだけ）

選択肢

※プルダウン選択式：都道府県

問 5. あなたがお住まいの市区町村をお知らせください。（ひとつだけ）

選択肢

（※問 4 に応じて、対象市区町村を提示）

プルダウン選択式：市区町村

問 6. あなたのご職業をお知らせください。（ひとつだけ）

選択肢

- ① 会社員（事務系）  
② 会社員（営業・販売系）  
③ 会社員（技術系）  
④ 経営者・役員  
⑤ 公務員  
⑥ 商工自営業  
⑦ 自由業  
⑧ 学生  
⑨ パート・アルバイト  
⑩ 専業主婦  
⑪ 無職  
⑫ その他

問7. あなたのお勤め先の業種をお知らせください。(ひとつだけ)

選択肢

- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| ① 農林漁業                  | ⑩ 精密機械器具・電子部品製造業 |
| ② 鉱業                    | ⑪ 輸送用機械器具製造業     |
| ③ 建設業                   | ⑫ その他の製造業        |
| ④ 食料品・飲料品製造業            | ⑬ 電気・ガス・水道       |
| ⑤ 繊維工業・製品製造業            | ⑭ 運輸業            |
| ⑥ 木材・家具・パルプ印刷関連製造業      | ⑮ 通信業            |
| ⑦ 化学工業・石油製品・プラスチック製品製造業 | ⑯ 飲食料品卸売業        |
| ⑧ 鉄工・金属製造業              | ⑰ 繊維・衣服等卸売業      |
| ⑨ 一般機械器具・電機機械器具製造業      | ⑱ その他商品卸売業       |
|                         | ⑲ 飲食料品小売業        |
|                         | ⑳ 繊維・衣服等小売業      |
|                         | ㊦ その他商品小売業       |
|                         | ㊧ 金融業            |
|                         | ㊨ 保険・不動産業        |
|                         | ㊩ 飲食店・宿泊業        |
|                         | ㊪ 医療・福祉          |
|                         | ㊫ その他のサービス業      |
|                         | ㊬ 公務             |

問8. あなたのお勤め先の地域をお知らせください。(ひとつだけ)

選択肢

- |            |            |
|------------|------------|
| ① 東京都 千代田区 | ⑬ 東京都 渋谷区  |
| ② 東京都 中央区  | ⑭ 東京都 中野区  |
| ③ 東京都 港区   | ⑮ 東京都 杉並区  |
| ④ 東京都 新宿区  | ⑯ 東京都 豊島区  |
| ⑤ 東京都 文京区  | ⑰ 東京都 北区   |
| ⑥ 東京都 台東区  | ⑱ 東京都 荒川区  |
| ⑦ 東京都 墨田区  | ⑲ 東京都 板橋区  |
| ⑧ 東京都 江東区  | ⑳ 東京都 練馬区  |
| ⑨ 東京都 品川区  | ㊦ 東京都 足立区  |
| ⑩ 東京都 目黒区  | ㊧ 東京都 葛飾区  |
| ⑪ 東京都 大田区  | ㊨ 東京都 江戸川区 |
| ⑫ 東京都 世田谷区 | ㊩ その他の地域   |

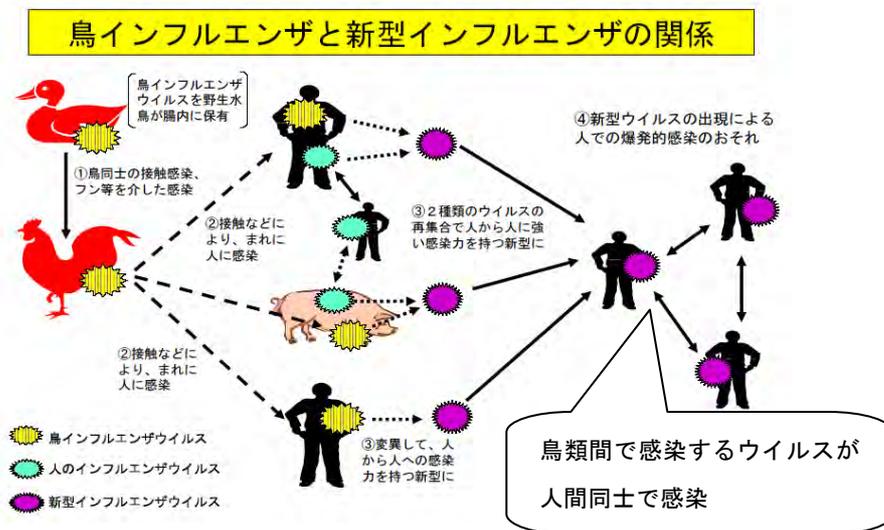
## 【新型インフルエンザ・パンデミックの認知度】

### 問9. 新型インフルエンザ・パンデミックの認知度について

～新型インフルエンザについて～

#### ○新型インフルエンザとは

- ・動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスが人に感染して、人の体内で増えることができるように変化し、人から人へと効率よく感染できるようになったインフルエンザ。
- ・人はこの免疫を持っていないため、容易に感染して、急速な世界的大流行（パンデミック）を起こす危険性がある。
- ・鳥インフルエンザのウイルスが、新型インフルエンザウイルスに変異すると懸念されている。



#### ○新型インフルエンザの世界的大流行について

- ・過去の世界的大流行：1918年の「スペインインフルエンザ」、1957年の「アジアインフルエンザ」など。
- ・被害状況：「スペインインフルエンザ」では日本で約2400万人感染し、約39万人が死亡。「アジアインフルエンザ」では日本で約300万人感染し、約5,700人が死亡。
- ・次の新型インフルエンザがいつ出現するのか、予測不可能。

### ○感染者数について

- ・ 日本政府における対策上の仮定：新型インフルエンザが全国的に流行した場合、人口の約1/4の人が感染し、医療機関を受診する患者数は最大で2,500万人・死者数は64万人と仮定。

### ○感染経路・感染予防について

- ・ 飛沫感染・接触感染：感染した人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫とともに放出されたウイルスを吸入することで感染。
- ・ 飛沫の到達範囲は1～2m以内。
- ・ 空気感染の可能性は否定できないものの、一般的に起きるとする科学的根拠はないため、事業所等においては空気感染を想定した対策よりもむしろ飛沫感染と接触感染を想定した対策を確実に講ずることが必要であると考えられる。
- ・ 感染予防：石鹼や消毒用アルコールを用いた手洗い、マスクの着用、人混みや繁華街への外出を控えること（不要不急の外出の自粛）が重要。
- ・ 新型インフルエンザ対策にはワクチンが有効だと考えられているが、実際に新型インフルエンザが発生しないと製造できないため、現時点では製造、備蓄は行えない。ワクチンの資材（鶏卵等）の確保から製造の終了まで概ね1年半程度要する。



資料：事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン（改定案）

9-1) 新型インフルエンザの説明内容について知っていますか。

選択肢

- ① 内容をよく知っていた。 ⇒ 問 9-2 へ
- ② 内容をだいたい知っていた。 ⇒ 問 9-2 へ
- ③ 新型インフルエンザの言葉は知っていたが、内容を知らなかった。
- ④ 新型インフルエンザの言葉も知らなかった。

9-2) 新型インフルエンザについて、どのように知りましたか。

選択肢

- ① テレビの報道から知った。
- ② 新聞の記事から知った。
- ③ 雑誌の記事から知った。
- ④ ウェブサイトの記事から知った。
- ⑤ 本を読んで知った。
- ⑥ その他

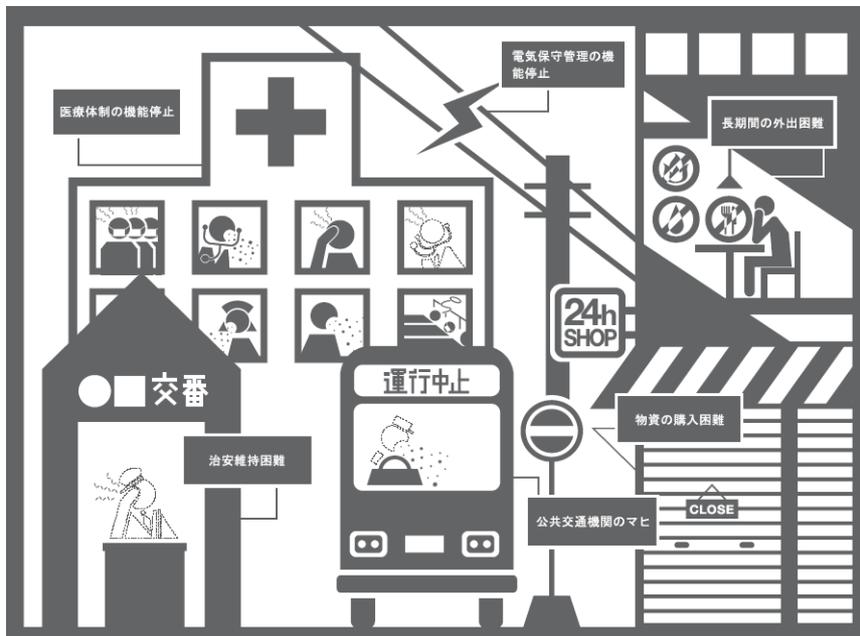
～新型インフルエンザが大流行（パンデミック）した時の社会の状況～

※下記の説明文を読んだ上で、ご回答下さい。

- 新型インフルエンザが発生した場合、基本的にすべての人が、そのウイルスに対して抵抗力（免疫）をもっていないために新型インフルエンザは人の間で、広範にかつ急速に広がると考えられます。

厚生労働省のHPではパンデミック時の社会の状況を以下のとおり説明しています。

「バスの運転手、警察官、スーパーの店員、電気、水道、ガスなどを保守管理する人、お医者さんなど生活を支えている多くの人たちもうつり、日常生活がまひするおそれがあります。」



資料：厚生労働省 HP カードゲーム PandemicFlu

- さらに、百貨店、劇場、映画館等の集客施設などが休業し、学校・保育園等も休校・休園となります。
- また、一部の事業所が休業する可能性があります。

9-3) 新型インフルエンザが大流行した時の社会の状況の説明内容について知っていますか。

選択肢

- ① 内容をよく知っていた。⇒ 問 9-4 へ
- ② 内容をだいたい知っていた。⇒ 問 9-4 へ
- ③ パンデミックの言葉は知っていたが、内容を知らなかった。
- ④ パンデミックの言葉も知らなかった

9-4) 新型インフルエンザが大流行した時の社会の状況について、どのように知りましたか。

選択肢

- ① テレビの報道から知った。
- ② 新聞の記事から知った。
- ③ 雑誌の記事から知った。
- ④ ウェブサイトの記事から知った。
- ⑤ 本を読んで知った。
- ⑥ その他

【パンデミック時の行動】

問 10. 世帯について

10-1) 住民票での世帯人数は、回答者ご本人も含めて何人ですか。

選択肢

例) 4 人

※プルダウン選択式：本人のみ～10人

10-2) 世帯構成とそれぞれの年齢について（同居のみ）

選択肢

	続柄	年齢	職業
1人目	例) 本人	例) 40～45	例) 会社員
2人目	例) 配偶者	例) 40～45	例) 無職
3人目	例) 子	例) 10～15	例) 小中高校生
4人目	例) 子	例) 15～20	例) 小中高校生

※10-1) に応じて、人数分の回答欄を提示

※プルダウン選択式 続柄：本人・配偶者・親・子・祖父母・孫

年齢：5歳刻み

職業：会社員、公務員、自営業、未就学、小・中・高校生、  
大学・大学院・専門学校生、無職、その他

10-3) 新型インフルエンザが大流行した時には人口密度の高い首都圏は感染する可能性が高いため、家族を遠方の実家等へ一時的に移動・転居させることも考えられます。首都圏で新型インフルエンザが大流行する可能性が高いと報じられた時点（そのような場合には近日中に学校が休校になるものと考えられます）を前提に、家族を一時的に移動・転居させるかどうかお答えください。

選択肢

	続柄	移動・転居について	
1人目	<input type="text" value="例) 本人"/>	<input type="checkbox"/> 移動・転居する (行先: <input type="text"/> )	<input type="checkbox"/> 移動・転居しない
2人目	<input type="text" value="例) 配偶者"/>	<input type="checkbox"/> 移動・転居する (行先: <input type="text"/> )	<input type="checkbox"/> 移動・転居しない
3人目	<input type="text" value="例) 子"/>	<input type="checkbox"/> 移動・転居する (行先: <input type="text"/> )	<input type="checkbox"/> 移動・転居しない
4人目	<input type="text" value="例) 子"/>	<input type="checkbox"/> 移動・転居する (行先: <input type="text"/> )	<input type="checkbox"/> 移動・転居しない

※10-2) の回答を自動で提示

※プルダウン選択式 行先：都道府県

## 問 11. 通勤について

11-1) 現在、通勤していますか。

選択肢

- 通勤していない (自宅と勤務先が同じ) ⇒ 問 15 へ
- 通勤している ⇒ 問 11-2 へ

11-2) 通常時の主要な通勤手段は何ですか。

選択肢

※プルダウン選択式 通勤手段：①鉄道 ②バス ③タクシー ④タクシーを除く自動車  
⑤バイク ⑥自転車 ⑦徒歩 ⑧その他

## 問 12. テレワークについて

勤務先では、テレワークが導入されていますか。

※テレワーク：情報通信技術（IT）を活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方

選択肢

- ある
- ない

問 13. 首都圏で新型インフルエンザの大流行がほぼ確実に became と自分が受けとめた時の、出勤に関するあなたの行動をお答えください。

13-1) その時に出勤しますか。理由とともにお答え下さい。

選択肢

【出勤する】 ⇒ 問 13-2 へ

- ①出勤する：理由 特別の指示がない限り、原則出勤するため
- ②出勤する：理由 勤務先の BCP（事業継続計画）等に従い、出勤するため
- ③出勤する：理由 その他（ ）

【出勤しない】 ⇒ 問 13-3 へ

- ④出勤しない：理由 勤務先の BCP（事業継続計画）等で定められているため
- ⑤出勤しない：理由 勤務先の BCP（事業継続計画）等はないが、自主的に出勤しない
- ⑥出勤しない：理由 その他（ ）

13-2) 出勤する場合、あなたの行動をお答えください。

選択肢

- 平常時と同じ
- 時差通勤（出社時刻を変更）する
- 通勤手段を変更する（どの通勤手段にしますか？  ）
- 時差通勤をし、通勤手段を変更する（どの通勤手段にしますか？  ）
- 勤務先又は勤務先周辺に用意されている宿泊施設に泊まり込む

※通勤手段：プルダウン選択式

- 通勤手段：①鉄道 ②バス ③タクシー ④タクシーを除く自動車 ⑤バイク  
⑥自転車 ⑦徒歩 ⑧その他

13-3) 出勤しない場合、業務に関するあなたの行動をお答えください。

選択肢

- 自宅待機（仕事はしない）
- 在宅勤務

問 14. 新型インフルエンザは飛沫感染しますが、飛沫が到達するのは1~2mとされています。そこで、鉄道利用には、マスク等を着用した上で周囲と一定の間隔※を空けることが感染を防止する上で有効とされています。

※一定の間隔の確保については、「事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン（案）」において、  
「通常、飛沫はある程度の重さがあるため、発した人から1~2メートル以内に落下する。つまり2メートル以上離れている場合は感染するリスクは低下する。」とされている。

このため、鉄道利用には、ホームでの列車待ち、車内での乗車位置等について、旅客同士間隔をとる等の一定のルールが必要で、乗客はそのルールを守って行動することが重要になると考えられます。

14-1) このような鉄道利用時のルールについて、あなたはどのように考え、どのように行動すると思いますか。

選択肢（複数回答可）

- 感染拡大防止にはルールは必要であり、社会全体がルールに従って行動できると思う  
⇒ 問 14-2 へ
- ルールは必要だと思うが、他人の行動につられるなどして実際にルールに従って行動できるかどうか不安を感じる ⇒ 問 14-2 へ
- ルールは必要だと思うが、ルールを理解できるかどうか不安を感じる  
⇒ 問 14-2 へ
- 各自の判断で行動すればよいと思うので、ルールを設ける必要はないし、自分は適切に行動できる
- ルールを設けたとしても守られないと思うので、ルールを設ける必要はない
- 通勤に鉄道を利用しないので、わからない

【自由記述】

14-2) ルールは必要であると回答した方に伺います。このような鉄道利用時のルールを、利用者に広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。

選択肢（複数回答可）

- ルールを示したパンフレットの配布
- ルールを示したポスターの掲示
- テレビや新聞など、マスコミを通じた情報の伝達
- インターネットによる情報の伝達
- 説明会の実施
- 実際、利用する時に、ルールを知れば問題ない
- わからない

【自由記述】

問 15. 首都圏で新型インフルエンザの大流行がほぼ確実になったと自分が受けたとめた時に仕事をしますか。理由とともにお答えください。

選択肢

【仕事をしない（休業する）】

- ①仕事をしない：理由 従業員が出社しないと思われるから
- ②仕事をしない：理由 受注がなくなると思われるから
- ③仕事をしない：理由 その他（ ）

【業務量を減らして仕事をする】

- ④業務量を減らして仕事をする：理由 従業員が減少すると思われるから
- ⑤業務量を減らして仕事をする：理由 受注が減少すると思われるから
- ⑥業務量を減らして仕事をする：理由 BCP（事業継続計画）等で定めているから
- ⑦業務量を減らして仕事をする：理由 その他（ ）

【通常通り仕事をする】

- ⑧通常通り仕事をする：理由 休業中の補償がないから
- ⑨通常通り仕事をする：理由 自宅で仕事をする仕組（テレワーク）があるから
- ⑩通常通り仕事をする：理由 その他（ ）